

入札監理小委員会における審議の結果報告
独立行政法人国際交流基金 日本語国際センター施設管理・運営業務

独立行政法人国際交流基金日本語国際センター施設管理・運営業務については、平成 23 年 4 月から 1 年間を契約期間として民間競争入札による事業を実施しているところ。契約期間終了後の事業については、公共サービス改革基本方針（別表）において、平成 24 年 4 月から平成 27 年 3 月までの 3 年間を契約期間として、民間競争入札を実施することとされている。（2 期目）

これに基づき、当該民間競争入札の実施要項（案）を入札監理小委員会において審議したので、その結果（主な論点と対応）を以下のとおり報告する。

1. 確保されるべきサービスの質（実施要項 4, 30 ページ）

【論点】

- 事業評価を踏まえ、快適性の確保に関連して実施するアンケートの達成指標を見直すなど、確保されるべきサービスの質の設定を一層適切に行うことが必要ではないか。

【対応】

- アンケートについて、平成 23 年度の業務では、達成指標を大きく上回る調査結果（平均約 99%）が得られていることから、アンケートによる質の達成指標を、「80% 以上の回答者から「満足」または「やや満足」の評価を得ること」とし、従来の実施における達成指標を 10 ポイント引き上げた。

また、各業務において受託事業者に求める質の達成状況が的確に反映される内容となるよう、アンケートの設問内容を見直した。

2. 競争性の確保（実施要項 7 ページ）

【論点】

- 事業評価を踏まえ、参入実績のない民間事業者においても、実施状況を踏まえた工夫（企画書の提案）が可能となるよう、実施要項等を実施状況の内容を十分に情報開示するなど、競争性の確保に配慮することが必要ではないか。

【対応】

- 入札説明会後にも実施要項や入札に係る事項について質問と質問への回答を入札参加者が共有できることを明記し、従来の実施状況に関する情報開示等を補い、入札参加者が創意工夫をできるようにした。

3. 業務内容（実施要項 30、42、46 ページ）

【論点】

- 各業務において受託事業者を求める質について適切な説明がなされているか。

【対応】

- 車両運行業務の内容について、前回の実施要項では「安全運転を第一として、」との記載があったが、アンケートの設問でバスが快適だったかを尋ねていることとの関連性が明確でないため、当該部分を「安全運転を行うとともに、定期的に車両整備を行い車内の美観を維持する等快適さを提供する」との記載に修正し、併せて、アンケートの設問内容を見直した。
- 年間定期保守点検業務の内容について、前回の実施要項では「機械、装置の耐用年数を伸ばすこと」との記載があったが、耐用年数を伸ばすことを明確に求めるものではないため、当該業務において受託事業者を求める質を踏まえ、当該部分を「延命対策などの適切な保守の措置を講ずることにより、所定の機能を維持」との記載に修正した。

以 上